

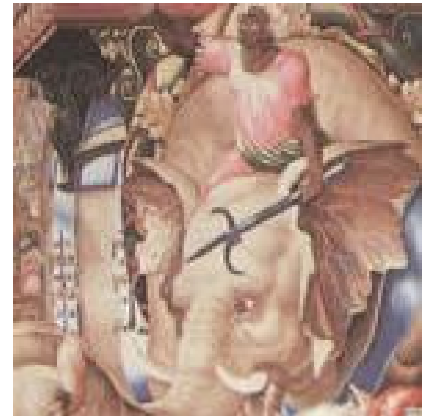
アンカス、あるいはゾウ用フック（手鉤） 【Ankus, Elephant hook】

http://www.upali.ch/hook_en.html

ゾウ用のフック（手鉤）とは何か？

アンカス、あるいはゾウ用フックは、ゾウ飼育係の日常会話では、簡単にフック（手鉤）と呼ばれており、人間がゾウを取り扱うための補助道具であり、非常に歴史が長いものである。古代のアジアの絵画における象使いは、すでに手鉤をいつも持っている。

現代のゾウ用の手鉤は、これらの絵の手鉤ほどは恐ろしくはない（大きなフックと大きな槍ではない）。アジアの一部の国々では、フックは、依然として、ゾウたちにかかなりの恐怖刺激を与える道具として使われており、ゾウたちは、このフックにより命令されている。



現代のアンカス（手鉤）は、どんな形状か？（下写真）

西洋のサーカスと動物園では、一部の飼育係たちが、髭剃り用ブラシ大の大きさや、もっと小さな手鉤を使ってフックの先端（尖った部分）を隠そうとしているが、その先端は釘のように鋭い。大きさは小さくとも、ゾウに対する影響（効果）は大きなフックと同じままである。



ゾウの管理人は、何のためにフックを必要とするか？

手鉤は、象使いとゾウの飼育係や調教師が、自分の命令をゾウに示す（主張する、断言する）ために役立つ（使う）。ゾウの飼育係は手鉤を使って、ゾウを「引き寄せたり」「押し下げたり（バック）」させることができる。これは、ゾウが手鉤の鋭い圧力（痛み）から、とりあえずは、逃げたいからである。

手鉤は、どのような鋭さがなければならないか？

手鉤は、最小の力で命令に従う効果が起きるように、非常に鋭く磨かれていなければならないが、ゾウに負傷を引き起こすほど鋭くてはならない。

手鉤が、どのように使われているかを、観客はどうやって知るか？

動物園やサーカスの飼育係や調教師が、どのように手鉤を使っているかを、有能な観察者は、かなり早く知る（解る）。

手鉤を酷使された（手鉤で虐待された）ゾウは、たいてい、耳の上、額、鼻や肘に、傷がある（上写真）。また、例えば、サーカスのゾウでは、列車にゾウを積み込む際に、ゾウの耳に手鉤を引っ掛け続けて、ゾウが困る（悩む）ほど耳が腫れあがることさえある。

